

連載

# 30 在宅医療奮闘記

平成7年より  
在宅を開始した

私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック院長

橋本 満義 (63歳・内科)

その時から  
在宅医療業務の  
“やりがい”を体感する。  
～ノミの大群とたたかう～



ある日、ヘルパーさんからまた在宅医療の依頼がありました。それは独居で寝たきりの傾向がある88歳の女性でした。その患者さんは優しい方で野良猫に餌をあげていたためノミの大群が家に押し寄せていたのです。ヘルパーさんから「ノミに注意」「床が抜ける可能性があるのでトイレは使用しないこと」とアドバイスを受けました。

患者さん宅へスリッパ持参で訪問してみると、尿失禁で床一面汚れていました。が、それはクリアできました。そして強力ノミ取り殺虫剤でノミ退治を行い、なんとか診療行為を行うことができたのです。

患者さんは、戦死されたご主人のことや可愛い猫たちのことを話してくださいました。難聴気味であったため、ゆっくりとお話を聞いていました。すると、とても素晴らしい笑

顔を見せてくださったのです。お若い頃はさぞかし心の優しい美人な方だったのだらうと思いました。

その時、子どものころに実家の納屋のムシロで遊んでいてノミをいっぱいもらった私の記憶が蘇り、とても懐かしい気持ちになりました。そして、この医療業務の仕事にやりがいを覚え心熱くなったのでした。

在宅業務のテキストに接近困難な事例が記載されています。また、縦割の専門職の連携の為、業務実践上“真のコンダクター役”が存在しないことが通例です。まして24時間365日態勢ともなると皆無と言えます。

だからこそ、私たちにもう一步の情熱が求められているのではないのでしょうか。

「お医者さんが来てくれる」  
質の高い在宅医療・看護・介護  
を『千舟町クリニック』は目指しています。



機能強化型・有床 在宅療養支援診療所

**(医)東西会 千舟町クリニック**

松山市千舟町6-4-9 Tel:089-933-3788

<http://www.touzaikai.jp/>